

電気通信事業分野における競争状況の 評価に関する実施細目2014（案）の概要

平成26年10月31日

総務省 総合通信基盤局
電気通信事業部 事業政策課

1. 総論

これまでの競争評価の取組	3
実施細目2014(案)のポイント	4
【参考】情報通信審議会における市場分析・検証の在り方に関する議論	5
競争評価2014のスケジュール(案)	6
新たな分析・検証スキームを見据えた取組	7
【参考】指定電気通信設備制度の概要	8

2. 戦略的評価関係

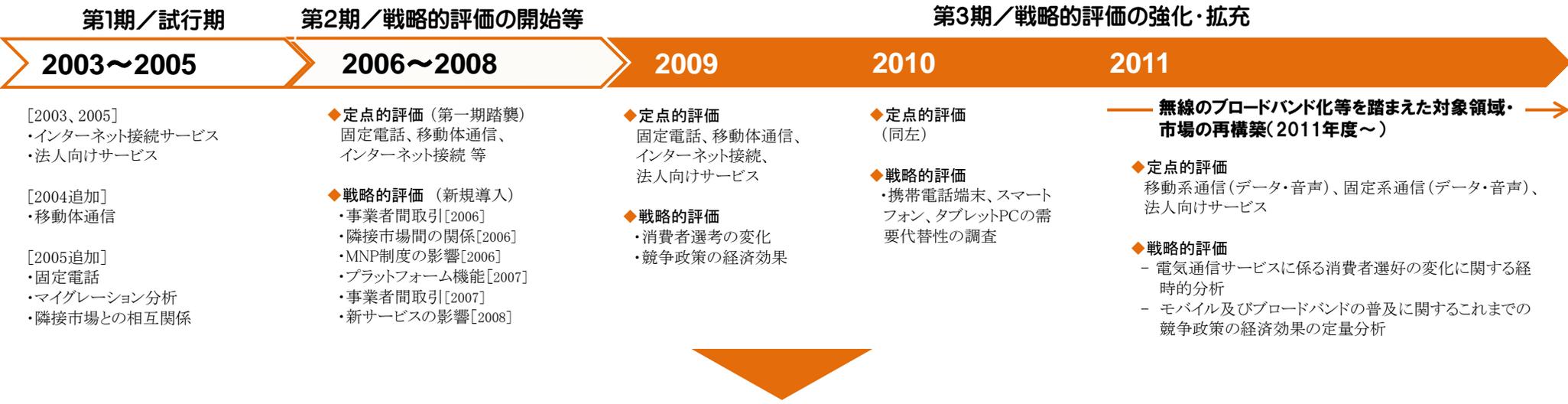
戦略的評価のテーマ ①	10
【参考】ソネットが提供するNTT東日本のダークファイバを利用したFTTHサービス	11
【参考】NTT東西による「サービス卸」の提供計画	12
戦略的評価のテーマ ②	13
【参考】MNO各社による新料金プラン	14

3. 定点的評価関係

競争評価2014におけるサービス市場の画定(案)	16
競争評価2014における地理的市場の画定(案)	17
サービス市場の概観	18
定点的評価における分析・評価の実施方針 ①	19
定点的評価における分析・評価の実施方針 ②	20
定点的評価における分析・評価の実施方針 ③	21
2014年度の定点的評価における分析指標の概観	22

1. 総論

- **競争評価**は、試行段階の第1期(03～05年度)、戦略的評価を定点的評価から分離させた第2期(06～08年度)を経て、**戦略的評価の強化・拡充等を行った第3期(09年度～)に入っている。**
- **2012年度及び2013年度は、2011年度の対象領域・市場の構成を原則として維持しつつ、LTE、BWAの急成長や企業グループ内連携の進展を始めとした環境変化に対応した分析・評価を実施した。**



2012年度以降の競争評価は、2011年度基本方針の枠組みを前提とした上で、市場の変化を踏まえ、戦略的評価を強化

2012年度競争評価

- ◆ **定点的評価**
 LTEやBWAサービスの急成長を踏まえて、「移動系超高速ブロードバンド市場」を、移動系データ通信市場の部分市場として画定等
- ◆ **戦略的評価**
 固定系／無線系等の連携サービスの進展等を受けて、戦略的評価のテーマを採用
 - 移動系通信市場における新規参入事業者の事業環境
 - 市場間の連携サービスの利用動向
 - 固定ブロードバンド・モバイルインターネットの上流サービス利用分析

2013年度競争評価

- ◆ **定点的評価**
 市場画定は、2012年度競争評価における枠組みを維持
- ◆ **戦略的評価**
 「料金低廉化・サービスの多様化のための情報通信分野の競争政策の見直し」に資するよう、戦略的評価を再構成
 - 企業グループにおける連携サービスの競争環境への影響の分析
 - 地域ブロックにおける超高速ブロードバンドサービスの競争状況に関する分析
 - 固定ブロードバンド・モバイルインターネットの上流サービスの利用分析

- 「電気通信事業分野における競争状況の評価に関する基本方針(2012年2月改定)」に基づき、**実施細目**において、**2014年度における競争評価の具体的な実施プロセス等の詳細**を定める。
- 競争政策の見直し等に係る**情報通信審議会の議論**を踏まえ、2014年度の競争評価は、**新たな市場動向の把握と政策展開への反映**を重視し、「**競争政策等留意事項**」の整理等を行う。
- このように、**現行の市場分析・評価の仕組みによるものとしては最後の取組**として位置付けられるとともに、**2015年度以降開始予定の新たな分析・検証の仕組みへの橋渡し**を視野に入れたものとする。

1. 分析・評価の結果を踏まえた「競争政策等留意事項」の整理

- 戦略的評価・定点的評価における分析を踏まえ、指定電気通信設備制度の運用等の**競争政策や料金政策**に関し、**総務省として留意する事項**(「**競争政策等留意事項**」)を整理する。

2. 「市場支配力の評価」に加えた「料金・サービスの評価」の実施

- **2013年度**の競争評価では、定点的評価において、**従来競争評価の取組が主眼としてきた市場支配力の評価**に加え、**料金・サービスの評価**を実施。
- 今後の政策展開への反映を重視する観点から、**2014年度においても引き続き当該評価**を行う。

3. 新たな市場動向の把握と政策展開への反映を重視した戦略的評価のテーマ設定

- 戦略的評価のテーマは、**新たな市場動向の把握と今後の政策展開への反映**を重視して設定。
- 具体的には、**①固定系超高速ブロードバンドに関する事業者間連携サービスの競争環境への影響に関する分析、②移動系通信に関する新たな料金施策の競争環境への影響に関する分析**とする。

4. 定点的評価における新たな部分市場の画定

- 需要の代替性等を踏まえ、**固定系ブロードバンド市場の部分市場**として、新たに**固定系超高速ブロードバンド市場**を位置付ける。

5月30日 基本政策委員会(第7回)

電気通信事業分野における競争状況の評価2013「戦略的評価」について、辻座長から御説明

9月16日 基本政策委員会(第14回)

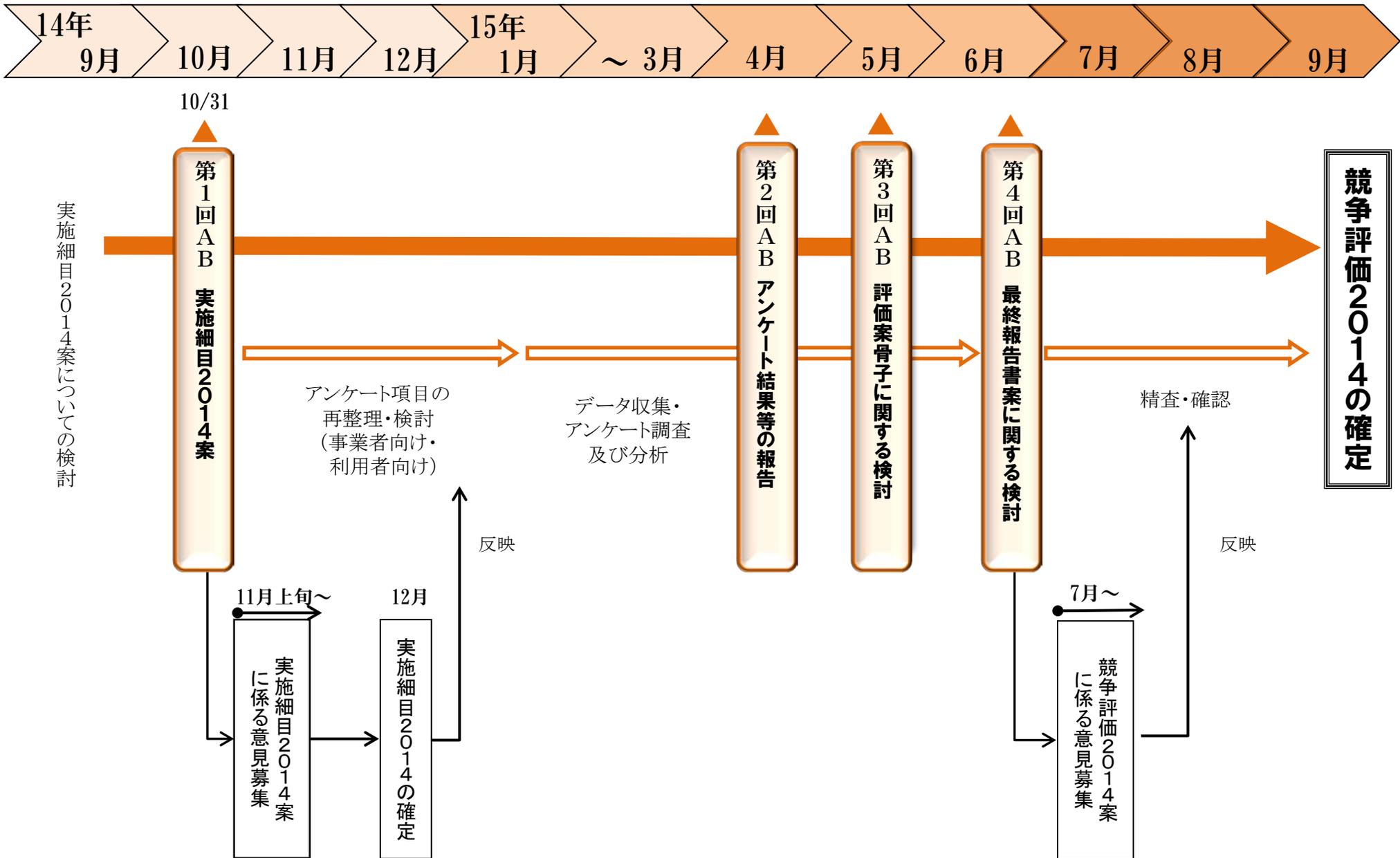
電気通信事業分野における競争状況の評価2013「定点的評価」について、辻座長から御説明

「2020年代に向けた情報通信政策の在り方」答申(案)抜粋

6. 1. 適切な行政運営の確保 (2)市場動向の分析・検証に関する行政運営サイクルの確立

- **市場動向の分析・検証**に関しては、2003(平成15)年度より、急激な変化を続ける市場動向を的確に把握する手段として「電気通信事業分野における競争状況の評価」(以下「**競争評価**」という。)を実施し、**市場の競争状況を定量的・定性的に分析・評価**してきた。また、2007(平成19)年度より「**競争セーフガード制度**」、2012(平成24)年度より「**ブロードバンド普及促進のための公正競争レビュー制度**」(以下「**公正競争レビュー制度**」という。)を運用し、指定電気通信設備制度に関する検証など、**非対称規制を中心に公正競争環境の検証**を行ってきたところである。
- しかしながら、例えば、移動通信市場においては、グループ化・寡占化が進展し、利用者の過度な囲い込みや料金の画一化が見られるほか、消費者の苦情・相談件数が増加するなど、**新たな課題**が生じており、**これらについての分析・検証を充実させる必要**がある。
- また、近年、固定通信と移動通信等のサービス連携・電波利用の連携、垂直統合型のサービスなど、これまでの市場の枠組を超えた新たな動向が見られるほか、今後、異業種との連携などの新たな動きも想定されることから、こうした**新たな市場動向**について**これまで以上に分析・検証を深めていく必要**がある。
- このため、これまで**市場支配力の有無等**を中心に分析・評価してきた**競争評価**と**非対称規制**を中心に運用してきた**公正競争レビュー制度**を**更に充実・発展**させ、**競争政策のみならず、料金政策等も含め市場動向を分析・検証する新たなツールとして位置付ける**ことが適当である。
- 具体的には、競争評価において毎年度市場支配力の有無等を定点的に観測している「**定点的評価**」を更に発展させ、市場支配力の有無等の競争政策に係る市場動向のみならず、料金政策や消費者保護政策に係る市場動向も含む電気通信市場全般の動向について、各種データ等を用いて定量的・定性的な分析・検証を行い、その結果を(1)の**基本的な指針や法令・ガイドラインに反映させる仕組みとしていく**ことが適当である。
- また、毎年異なる特定テーマに焦点を当てて分析を実施している「**戦略的評価**」に関しても、新たな課題が日々生じてきている状況を踏まえ、**最新の市場動向やより先進的な課題**について、**これまで以上に客観的・専門的な見地から分析・検証できる仕組みとしていく**ことが適当である。
- なお、これらを**基本的な指針や法令・ガイドラインへの反映を目的とするものとして位置付ける**ことに鑑み、例えば、競争評価において**任意のアンケートで得てきた情報**のうち市場動向の分析・検証に不可欠と認められるもの等については、**法令に基づく行政への報告事項として位置付ける**ことが望ましいと考えられる。

競争評価2014のスケジュール(案)



従来の競争評価

定点的評価



戦略的評価



総務省の政策展開

2014年度の競争評価

定点的評価



戦略的評価



総務省の政策展開

固定通信

第一種指定電気通信設備制度

加入者回線シェア
50%超の事業者

NTT東日本、NTT西日本

接続関連規制

接続約款認可
接続会計整理
アンバンドル義務 等

利用者料金関連規制(一部サービス)

約款届出
プライスキップ規制等

特定の行為の禁止

【禁止される行為】

接続情報の目的外利用
事業者の不当な差別的取扱い
メーカー等への不当な規律・干渉
特定関係事業者との役員兼任 等

他の事業者

適用対象外

適用対象外

適用対象外

移動通信

第二種指定電気通信設備制度

端末設備シェア
10%超の事業者

NTTドコモ、KDDI・沖縄セルラー、ソフトバンクモバイル

接続関連規制

接続約款届出
接続会計整理 等

適用対象外

特定の行為の禁止

【禁止される行為】

接続情報の目的外利用
事業者の不当な差別的取扱い
メーカー等への不当な規律・干渉

適用対象外

他の事業者

適用対象外

適用対象外

適用対象外

収益シェア25%超の場合に
個別に指定する事業者

NTTドコモ

2. 戰略的評估關係

テーマ① 「固定系超高速ブロードバンドに関する事業者間連携サービスの競争環境への影響に関する分析」

背景

- **固定系超高速ブロードバンド**※については、2013年4月にISPのソネットがNTT東日本のダークファイバを利用したFTTHサービスを開始する等、**ISPとアクセス回線事業者との関係**について、**新たな動きが見られる**ところである。

※ FTTH及び通信速度下り30Mbps以上のCATVインターネットをいう。

- また、NTTが2014年5月に発表した**NTT東西によるFTTHの卸売サービスの提供**は、NTTが多様なプレイヤーとのコラボレーションを掲げていることも踏まえると、固定系超高速ブロードバンドに関する**事業者間連携の在り方に影響を及ぼす**可能性がある。

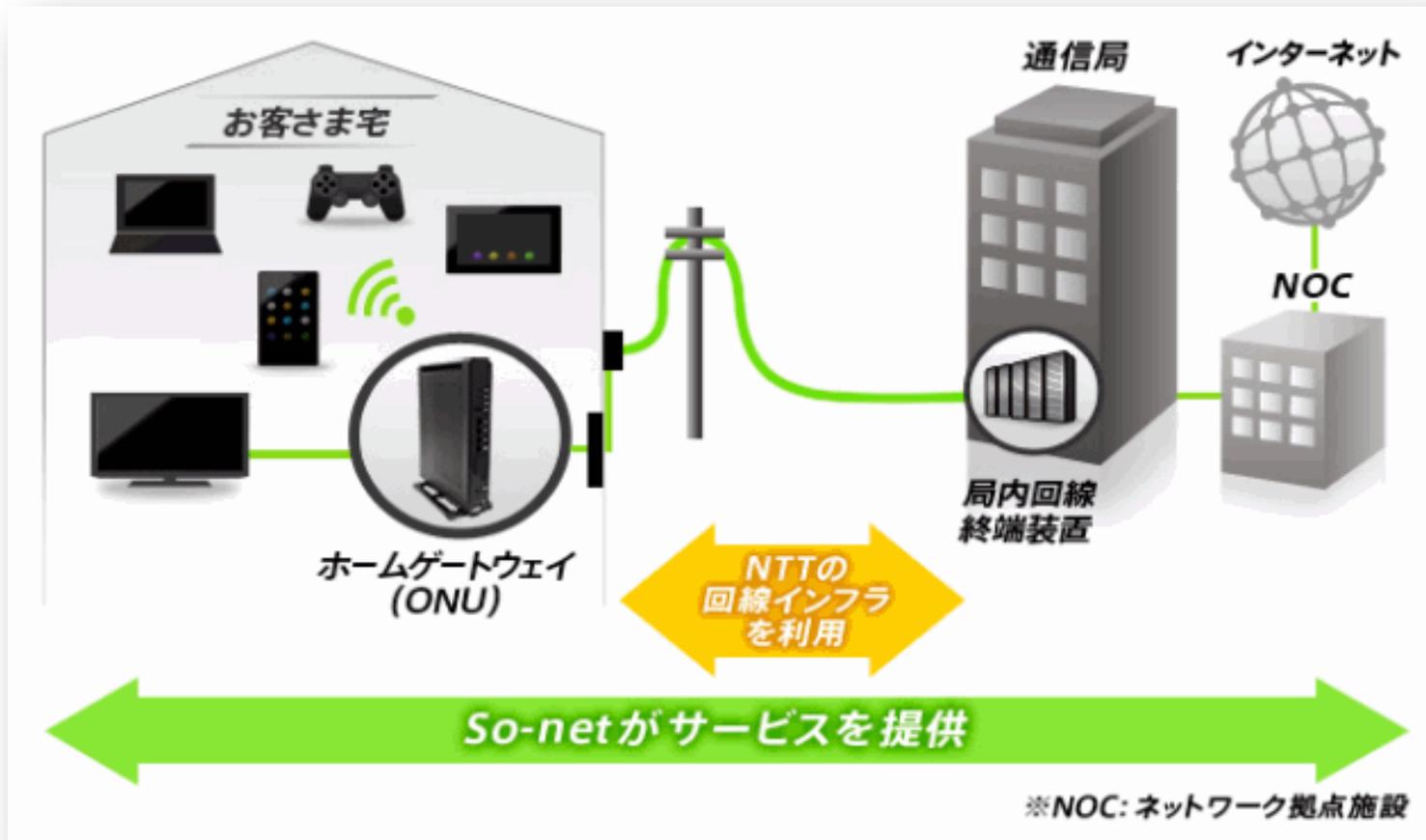
- さらに、2013年度の戦略的評価において分析を行った「**移動＋固定型**」の**連携サービス**についても、auスマートバリューが更に利用数を伸ばす等、**進展を続けている**。



分析等

- このような**固定系超高速ブロードバンドに関する事業者間連携サービスを巡る状況とその変化を把握**するとともに、隣接市場も含めた**競争環境への影響を分析**した上で、指定電気通信設備制度等**関連する競争ルールの運用に当たつての課題を整理**する。

- 2013年4月15日、ISPのソネットは、NTT東日本のダークファイバを利用した下り最大2GbpsのFTTHサービス『NURO 光』の提供を開始。



● 2014年5月13日、NTTは、NTT東西が平成26年度第3四半期以降に「サービス卸」を提供すると発表。

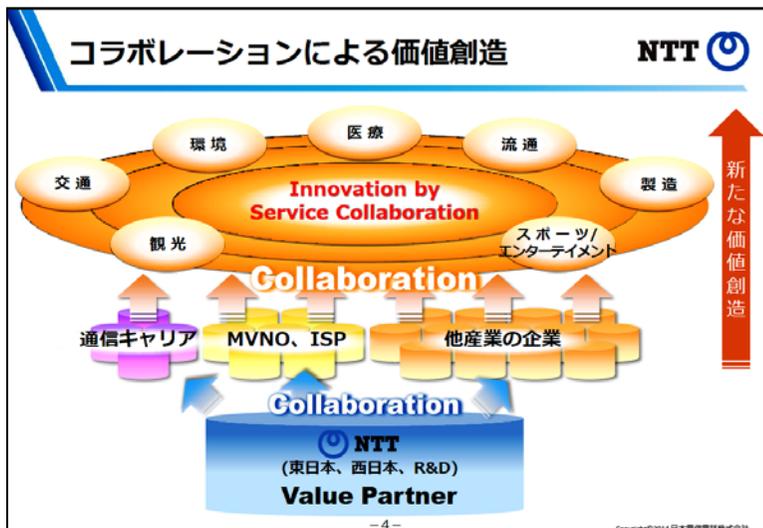
世界初の光アクセス「サービス卸」 NTT

- NTT東西による光アクセスの「サービス卸」
 - 光アクセスの本格的「サービス卸」は**世界初**
 - 幅広い分野の多様なプレイヤーに**公平**に提供
 - 現行の法制度下で提供可能
(従来の接続制度下における設備等の提供も継続)
- NTT東西は「**バリューパートナー (Value Added Enabler)**」として多様なプレイヤーによる新たなサービス創出を下支え (ビジネスモデルの変革)

「光コラボレーションモデル」

「光コラボレーションモデル」 NTT

従来	「光コラボレーションモデル」
NTT東西が、直接、 光アクセスサービスを エンドユーザに提供 B2C	多様なプレイヤーが、 NTT東西から光アクセスの 「サービス卸」を受け、 自社の強みと組み合わせ、 自社サービスとして エンドユーザに提供 B2B2C



今後のスケジュール NTT

2014年度 第1四半期	第2四半期	第3四半期～
★ 本日	★ NTT東西が 概要(提供条件等) を提示	提供開始

事業者様向け事前お問い合わせ窓口
 NTT東日本 ビジネス開発本部 03-5359-7159 hikari_collabo@ml.east.ntt.co.jp
 NTT西日本 ビジネスデザイン部 06-4793-5771 hikari_collabo@ml.hq.west.ntt.co.jp

テーマ② 「移動系通信に関する新たな料金施策の競争環境への影響に関する分析」

背景

- 従来、携帯電話事業者(MNO)主要各社のスマートフォン向けデータ通信料金プランは、月7GBを上限とされていたほか、利用者の利用実態に応じた多段階のプランが設定されていなかったといえる。
- このような中、2014年6月以降、MNO各社はデータ通信に係る料金プランの多段階化と通話定額制等の組合せを内容とする新料金プランを相次いで導入した。
- 当該新料金プランについては、データ通信に係る利用者の利用実態の乖離を是正するものという見方がある一方で、通話の利用時間数が少ない利用者にとっては実質的には値上げとなるという見方もある。



分析等

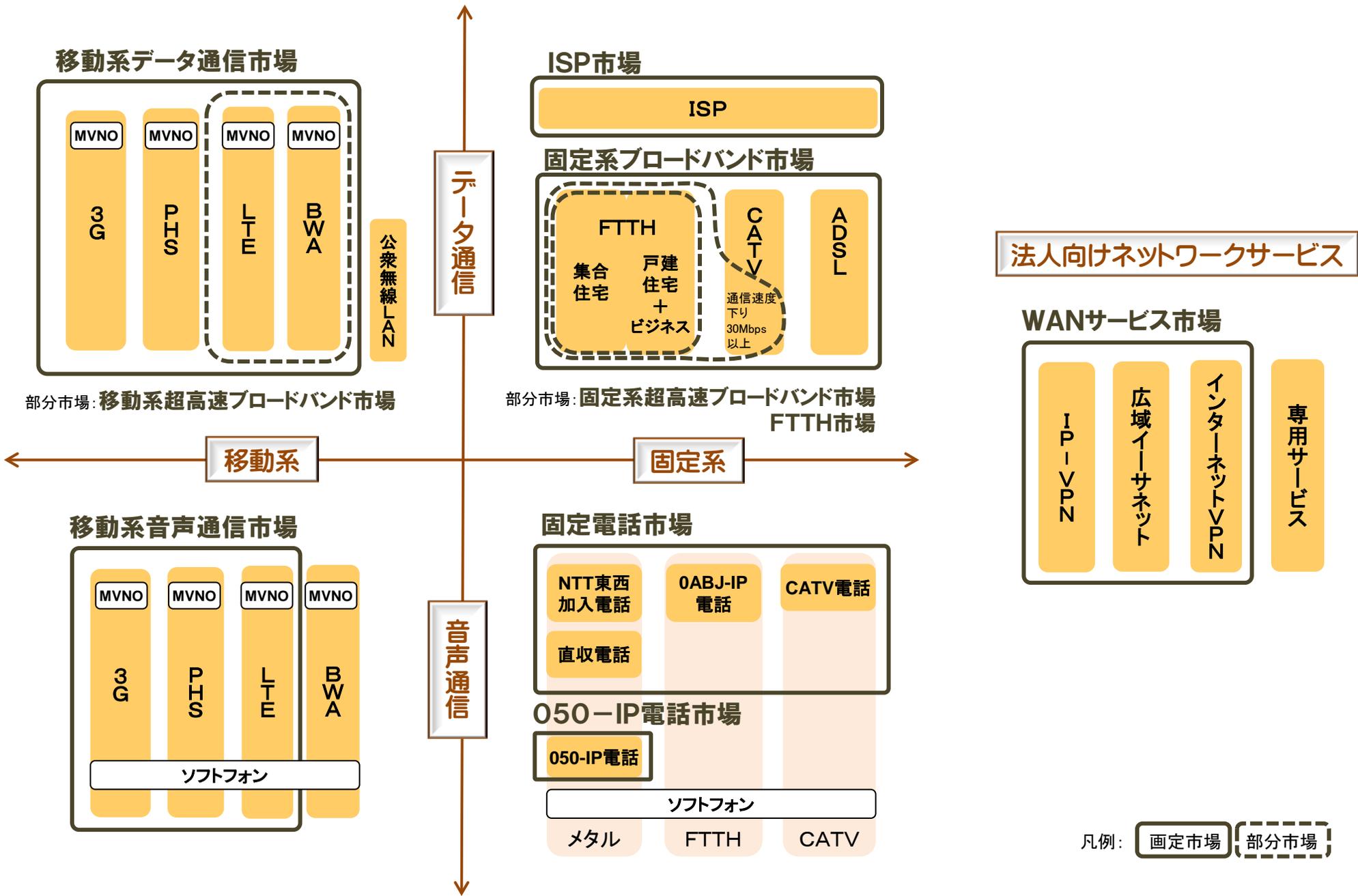
- これらを踏まえつつ、当該新料金プランを始めとする新たな料金施策の利用実態を把握するとともに、MNOの財務やMVNOの提供するサービスへの影響等、競争環境への影響について総合的に分析を行った上で、料金政策の観点からの課題を整理する。

【参考】MNO各社による新料金プラン

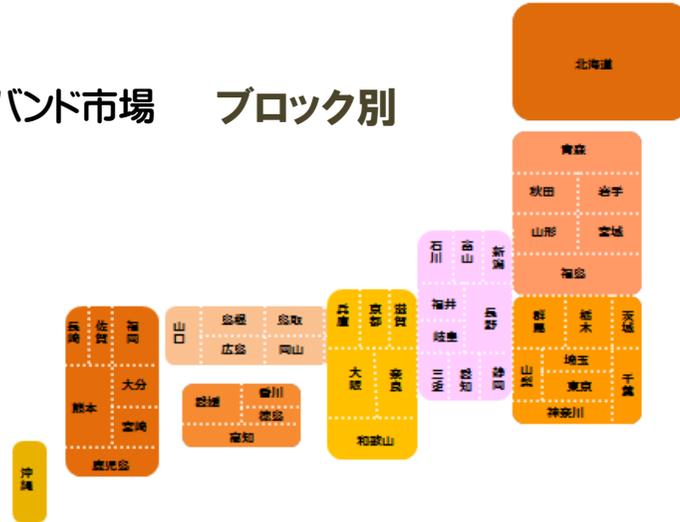
● 2014年6月以降、携帯電話事業者(MNO)各社は、データ通信に係る料金プランの多様化と通話定額制等を内容とする新料金プランを相次いで導入。

会社名	NTTドコモ	KDDI (au)	ソフトバンク モバイル	ワイモバイル	
基本料 (国内通話のかけ 放題を含む)	ケーホーダイプラン (2年契約)	電話かけ放題プラン (2年契約)	通話し放題プラン (2年契約)	スマホプランS/M/L (2年契約)	
	2,700円	2,700円	2,700円	S(1GB):2,980円 M(3GB):3,980円 L(5GB):5,980円	
ネット 接続料	spモード 300円	LTE NET 300円	S! ベーシックパック 300円	基本料に含む	
データ通信料金	2GB	3,500円	3,500円	基本料に含む	
	3GB	—	4,200円		
	5GB	5,000円	5,000円		
	8GB	6,700円	6,700円		
	10GB	9,500円 ※	8,000円		9,500円 ※
	13GB	—	9,800円		—
	15GB	12,500円 ※	—		12,500円 ※
20GB	16,000円 ※	—	16,000円 ※		
30GB	22,500円 ※	—	22,500円 ※		
合計	6,500円～25,500円	6,500円～12,800円	6,500円～25,500円	2,980円～5,980円	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ※ 10GB以上は家族間でデータ容量をシェアすることが可能。 ・2014年6月提供開始。 ・2014年10月から未使用の容量を翌月に繰り越し可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3GB、8GBのプランも提供。 ・データ通信量を家族に融通可能。 ・2014年8月13日提供開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ※10GB以上は家族間でデータ容量をシェアすることが可能。 ・未使用の容量を翌月に繰り越し可能。 ・2014年7月提供開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他社携帯電話・PHS・固定電話(IP電話含む)への1回当たり10分以内の国内通話が月300回まで可能。 ・2014年8月提供開始。 	

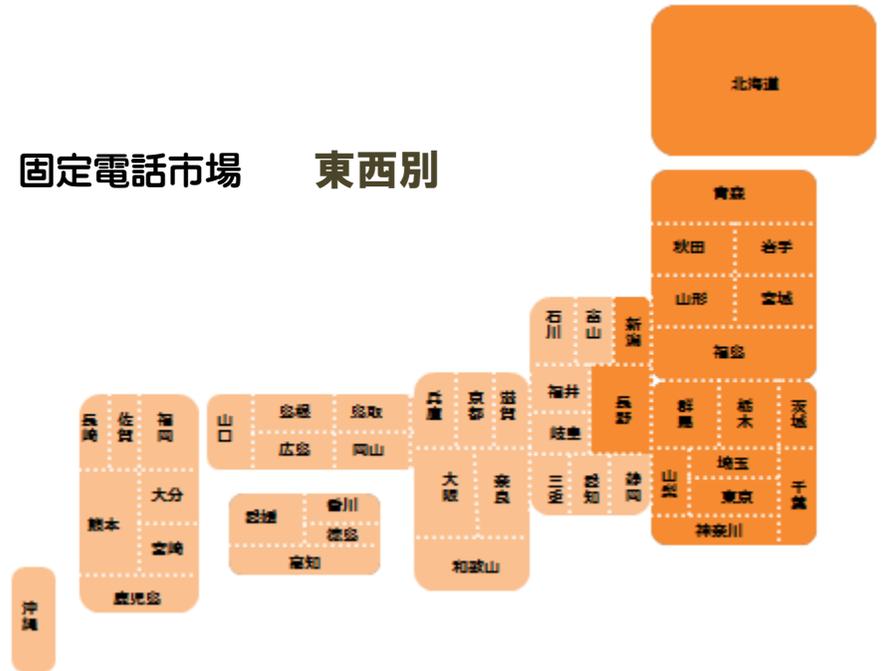
3. 定点的評估關係



固定系ブロードバンド市場 ブロック別

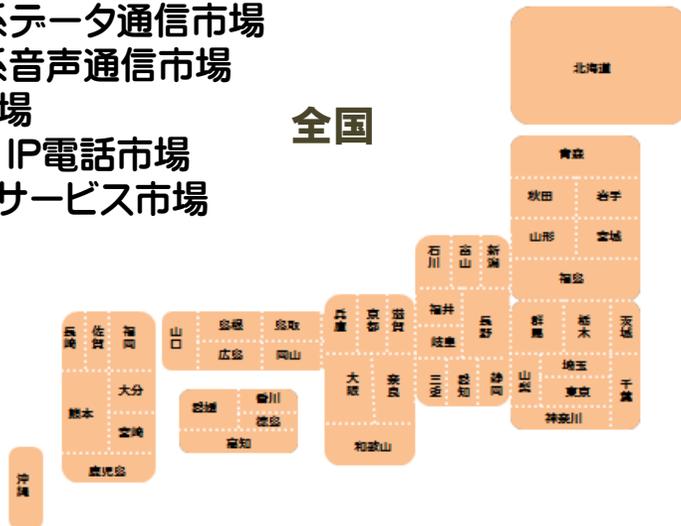


固定電話市場 東西別



- 移動系データ通信市場
- 移動系音声通信市場
- ISP市場
- 050 - IP電話市場
- WANサービス市場

全国



2013年度競争評価

2014年度競争評価

データ通信	移動系	3G、LTE、PHS、BWA
		移動系超高速ブロードバンド (BWA、LTE)
	固定系	固定系ブロードバンド
		FTTH
		ADSL
CATV		
	ナローバンド	
	ISP	
音声通信	移動系	携帯電話、PHS、ソフトフォン
	固定系	固定電話、ソフトフォン
		中継電話
		050-IP電話
法人向けネットワーク		WANサービス
		専用サービス



データ通信	移動系	3G、LTE、PHS、BWA
		移動系超高速ブロードバンド (BWA、LTE)
	固定系	固定系ブロードバンド
		固定系超高速ブロードバンド (FTTH、通信速度下り30Mbps以上のCATV)
		FTTH
		ADSL
		CATV
	ナローバンド	
	ISP	
音声通信	移動系	携帯電話、PHS、ソフトフォン
	固定系	固定電話、ソフトフォン
		中継電話
		050-IP電話
法人向けネットワーク		WANサービス
		専用サービス

(注) 表中、明朝部分は評価の対象としないもの、白抜き部分は新たに追加するものを表す。

移動系通信事業全般

- **企業グループ単位での分析・評価**について、2013年度におけるグルーピングの考え方や、同一グループ内の事業者間取引による連携サービスの重複計上排除の方法等を維持しつつ、**個社別の分析・評価と併せて実施**する。

移動系データ通信市場

- 2014年度においては、**原則として2013年度の供給側・需要側データの取得を継続**して分析・評価を行う。
- **評価に当たっての勘案要素**としては、引き続き**上位下位レイヤーをレバレッジとしたネットワークレイヤーへの影響**を取り上げる。
- 2013年度の戦略的評価における「**移動＋移動型**」の連携サービスの分析について、**その後の動向のフォローアップ**を行う。

移動系音声通信市場

- 2014年度においては、**原則として2013年度の供給側・需要側データの取得を継続**して分析・評価を行う。
- **評価に当たっての勘案要素**としては、引き続き**ソフトフォン等による代替性の有無**を取り上げる。
- **VoLTEの動向**についても、必要に応じ分析に取り入れる。

移動系データ通信市場の分析指標

基本データ	<p>供給側データ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 市場規模等 ➢ シェア ➢ 市場集中度 ➢ 事業者間取引関連(接続料、MVNOの状況等) <p>需要側データ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 料金等(ARPUを含む。) ➢ サービス品質(通信速度等) ➢ サービス変更コスト(解約手数料、SIMロック解除の状況等)
評価に当たっての勘案要素	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 上位下位レイヤーをレバレッジとしたネットワークレイヤーへの影響

移動系音声通信市場の分析指標

基本データ	<p>供給側データ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 市場規模等 ➢ シェア ➢ 市場集中度 ➢ 事業者間取引関連(接続料、MVNOの状況等) <p>需要側データ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 料金等(ARPUを含む。) ➢ サービス品質 ➢ サービス変更コスト(解約手数料、SIMロック解除の状況、番号ポータビリティの状況等)
評価に当たっての勘案要素	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ソフトフォン等による代替性の有無

固定系ブロードバンド市場

- 2014年度においては、**原則として2013年度の供給側・需要側データの取得を継続**して分析・評価を行う。
- **評価に当たっての勘案要素**としては、引き続き**移動系データ通信による代替性の有無、NTT東西加入電話による固定系ブロードバンド市場へのレバレッジの有無、固定系ブロードバンド市場における参入が進んでいないエリアの状況**を取り上げる。
- 2013年度の戦略的評価における**地域ブロックにおける超高速ブロードバンドサービスの競争状況の分析**について、**その後の動向のフォローアップ**を行う

ISP市場

- 2014年度においては、**原則として2013年度の供給側・需要側データの取得を継続**して分析・評価を行う。
- **評価に当たっての勘案要素**としては、**ISPとアクセス回線事業者との関係性**を新たに取り上げる。

固定系ブロードバンド市場の分析指標

基本データ	<p>供給側データ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 市場規模等 ➢ シェア ➢ 市場集中度 ➢ 設備競争の状況 ➢ 事業者間取引関連(接続料、貸出回線数等) <p>需要側データ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 料金等 ➢ サービス品質(通信速度等) ➢ サービス変更コスト(解約手数料等)
評価に当たっての勘案要素	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 移動系データ通信による固定ブロードバンドの代替性 ➢ NTT東西加入電話によるFTTHへのレバレッジ懸念 ➢ FTTHの参入が進んでいないエリアの状況

ISP市場の分析指標

基本データ	<p>供給側データ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 市場規模等 ➢ シェア ➢ 市場集中度 <p>需要側データ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 料金等
評価に当たっての勘案要素	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ISPとアクセス回線事業者との関係性

固定電話市場及び050 - IP電話市場

- 2014年度においては、**原則として2013年度の供給側・需要側データの取得を継続**して分析・評価を行う。
- **評価に当たっての勘案要素**としては、引き続きソフトフォン等による代替性の有無を取り上げる。

WANサービス市場

- 2014年度においては、**原則として2013年度の供給側・需要側データの取得を継続**して分析・評価を行う。
- **評価に当たっての勘案要素**としては、引き続きクラウドサービスの動向を取り上げる。

固定電話市場の分析指標		050 - IP電話市場の分析指標		WANサービス市場の分析指標	
基本データ	供給側データ ▶ 市場規模等 ▶ シェア ▶ 市場集中度 ▶ 事業者間取引関連(接続料等) 需要側データ ▶ 料金等	基本データ	供給側データ ▶ 市場規模等 ▶ シェア ▶ 市場集中度 需要側データ ▶ 料金等	基本データ	供給側データ ▶ 市場規模等 ▶ シェア ▶ 市場集中度 需要側データ ▶ 料金等
評価に当たっての勘案要素	▶ ソフトフォン等による代替性の有無	評価に当たっての勘案要素	▶ ソフトフォン等による代替性の有無	評価に当たっての勘案要素	▶ クラウドサービスの動向

領域	データ通信				音声通信		法人向けネットワークサービス	
市場	固定系			移動系		固定系		
	固定系ブロードバンド		ISP	移動系データ通信	移動系音声通信	固定電話	050-IP電話	WANサービス
	固定系超高速ブロードバンド	FTTH		移動系超高速ブロードバンド				
分析指標								
基本データ	供給側 ➢ 市場規模等 ➢ シェア ➢ 市場集中度 ➢ 設備競争の状況 ➢ 事業者間取引関連(接続料、貸出回線数等)	供給側 ➢ 市場規模等 ➢ シェア ➢ 市場集中度	供給側 ➢ 市場規模等 ➢ シェア ➢ 市場集中度 ➢ 事業者間取引関連(接続料、MVNOの状況等)	供給側 ➢ 市場規模等 ➢ シェア ➢ 市場集中度 ➢ 事業者間取引関連(接続料等)	供給側 ➢ 市場規模等 ➢ シェア ➢ 市場集中度	供給側 ➢ 市場規模等 ➢ シェア ➢ 市場集中度		
	需要側 ➢ 料金等 ➢ サービス品質(通信速度等) ➢ サービス変更コスト(解約手数料等)	需要側 ➢ 料金等	需要側 ➢ 料金等(ARPUを含む。) ➢ サービス品質(通信速度等) ➢ サービス変更コスト(解約手数料、SIMロック解除の状況、番号ポータビリティの状況等)	需要側 ➢ 料金等	需要側 ➢ 料金等	需要側 ➢ 料金等		
評価に当たっての勘案要素	➢ 移動系データ通信による固定ブロードバンドの代替性 ➢ NTT東西加入電話によるFTTHへのレバレッジ懸念 ➢ FTTHの参入が進んでいないエリアの状況	➢ ISPとアクセス回線事業者との関係性	➢ 上位下位レイヤーをレバレッジとしたネットワークレイヤーへの影響	➢ ソフトフォン等による代替性の有無			➢ クラウドサービスの動向	

各データについては、経年変化やグループ化の動向を勘案した収集・分析を行う。